「ハンドルの重みは命の重み」
交通事故ゼロの社会へ

公益財団法人交通遺児育英会は1969年の設立以来、交通事故で保護者が亡くなったり重度の障害を負ったりして、経済的に修学が困難になった子どもたちに、奨学金の貸与・給付などの支援を続けている。また交通遺児のいない社会をつくるため、全国各地の交通安全運動に協賛し、飲酒運転撲滅を目指す「TEAM ZERO FUKUOKA（チームゼロフクオカ）」の一員でもある。福岡県では飲酒運転事故の恐ろしさや悲惨さについて考える機会が増えるこの時期、同会会長の石橋健一氏と、飲酒運転事故で娘を失った大庭茂彌氏が飲酒運転撲滅への思いや交通遺児の支援などについて語り合った。（本文は敬称略）

福岡のみんなの力で、飲酒運転ゼロへ。
TEAM ZERO FUKUOKA

飲酒運転撲滅を目指して命の大切さ伝え続ける

福岡県飲酒運転撲滅活動アドバイザー
大庭 茂彌 氏

おおば・しげみ　1947年生まれ。99年に飲酒運転事故で大学生だった次女を失い、飲酒運転をなくすための活動を開始。2012年から福岡県飲酒運転撲滅活動アドバイザー。同年福岡県初の飲酒運転撲滅活動功労者表彰を受ける。

交通遺児の自立に向けて遺族の要望で事業改革も

公益財団法人交通遺児育英会会長
石橋 健一 氏

いしばし・けんいち　1942年生まれ。北海道大工学部卒業後、日新製鋼（現日本製鉄）入社。呉製鉄所エネルギー技術課、本社人事部などを経て、96年交通遺児育英会出向。事務局長、専務理事、理事長を歴任し2023年6月から現職。

交通遺児に学ぶ機会を保護者の願いから設立

―交通遺児育英会設立の経緯を教えてください。

石橋　1960年代は高度経済成長期で国民の生活は豊かになりました。モータリゼーションも進む一方で交通事故が多発。その犠牲者の多くは家計を支える父親で、経済的に困窮する家庭が増えたのです。「せめてわが子を高校には進学させたい」という遺児の母親たちの願いを受け、69年5月2日に当会は設立しました。

大庭　交通事故の被害者が父親の場合、残された家族の生活は大変ですね。私は99年12月に大学生だった次女の三弥子を飲酒運転事故で亡くしました。公園設計の仕事に就くという目的に向かって大学生活を送っていた三弥子は、友人2人と共に突然命を落としました。それから私は飲酒運転撲滅に向けて講演活動を続け、「生きていく上で自分よりも他人のために尽くす〝利他の心〟が大事」と伝えています。

石橋　人は自分だけでは生きていけないので、他人を思いやるというのはとても大切なことです。

返還負荷の軽減など時代に合わせ支援を拡大

―交通遺児育英会の支援活動内容は。

石橋　当会では、これまで約5万8千人の交通遺児の方々に総額584億円を超える支援をしています。その内容は奨学金の貸与（一部給付）をはじめ、学生寮「心塾（こころじゅく）」の運営、「高校奨学生と保護者のつどい」「語らいカフェ」「海外語学研修」など、進学や自立に向けて多岐にわたります。自宅外通学者への家賃補助、運転免許取得費用の補助などもあります。さらに本年度から外国語検定や資格試験の種類を拡大し、受験費用を全額給付しています。今注力しているのは、奨学金の返還負荷の軽減で、奨学金の一部を返還しなくてよい給付型を採用。具体的には2020年4月から大学生や大学院生などを対象に月額2万円、23年4月には高校生にも月額1万円の給付を始めました。

大庭　奨学金で修学できるのはありがたいことです。ただ返済の負担を考えると、一部だけでも免除されると助かる奨学生は多いでしょうね。

―奨学金以外の支援をもう少し詳しくお願いします。

石橋　「心塾」は勉学に励み安心して暮らせる場として運営しています。当会所有の東京学生寮（東京都日野市）は朝夕食事付き月額1万円、今約40人が生活の拠点にしています。大阪市、京都市、神戸市には25カ所の学生会館を借り上げた関西学生寮があり、ここは朝夕食事付きで月額平均2万円です。東京で年に1度開催する「高校奨学生と保護者のつどい」と、全奨学生の保護者同士の交流を目的に全国各地で開く「語らいカフェ」は、保護者から事業改革の要望など率直な意見が聞ける貴重な機会でもあります。

―「海外語学研修」は高校奨学生が対象だそうですね。

石橋　毎年約30人が夏休みの3週間、米カリフォルニア州でホームステイを体験します。語学習得を目的にしていますが、自立心を強くして帰国する奨学生が多く、それは大きな成果だといえます。

大庭　外国での体験はとても有意義だと聞きます。国内でも里親留学などで親元を離れると、親を頼るのではなく、そばにいる友達などと触れ合うことで生きる力を学べるようですね。

―ヤングケアラーの問題もあると聞きました。

石橋　アンケートによると、当会の奨学生の約11％が、働く保護者に代わって幼いきょうだいの世話をしたり、けがをした父親の世話をしたりするヤングケアラーであると考えられます。実態調査を進めながら、必要な支援を検討し、なるべく早く実行に移したいと思っています。

大庭　ヤングケアラーは表面化しにくく、助けを求める手段も分からない。そのような子どもへの負担は大きな損失だと思いますね。

―三弥子さんが亡くなって大庭さんが始めた活動をお聞かせください。

大庭　01年に飲酒運転事故や犯罪で命を落とした被害者を紹介する「生命（いのち）のメッセージ展」（開催地・浜松市）に参加し、遺族として命の大切さを伝えていかなければいけないと思いました。07年には同展を福岡県前原市（現糸島市）での開催へとつなぎ、これまで規模を縮小した同展が毎年開かれています。

石橋　講演活動はどの地域でされていますか。

大庭　主に福岡県内です。中学・高校生を対象にした福岡県警の「命の大切さを学ぶ教室」では被害者遺族の体験を話し、福岡県飲酒運転撲滅活動アドバイザーとしては各所で講演をしています。そして遺族のつながりをつくりたいという思いから、15年に糸島市でヒマワリの植樹を始めました。昨年夏には三弥子をモデルにした飲酒運転撲滅モニュメントが福岡市の彫刻家、片山博詞さんの制作で完成しました。

石橋　そのような活動がドライバーの安全運転意識の向上につながるのではないでしょうか。

「海外語学研修」では米カリフォルニア州の企業や施設の見学も

「心塾」東京学生寮の居室は1人部屋で19.12平方㍍（上）、各34室の男子棟と女子棟がある（下）

修学を諦める交通遺児が出ないよう広報活動も

―飲酒運転をはじめ交通事故がなくなる社会をつくるにはどのような考えや行動が必要でしょうか。

石橋　当会では、交通安全を意識して運転することの大切さを伝える活動として、全国各地の自動車学校や運転業務に関わる企業などで、奨学生や保護者が交通事故被害体験を語る無料出張講演を実施しています。この講演で、あるお母さんが「ハンドルの重みは命の重み」という言葉を残されました。ハンドルを握る人は命の重みを握っているという意識を持ってほしい。それが運転の基本だと思います。

大庭　胸に刺さる言葉ですね。福岡県が掲げる飲酒運転撲滅のスローガンは「飲酒運転は絶対しない、させない、許さない、そして見逃さない」です。飲酒運転を見かけたら警察などに通報することが20年に義務化されました。家族から被害者も加害者も出してはいけないということをこれからも訴えていきます。

石橋　飲酒が運転機能に与える影響の大きさをドライバーが真剣に受け止めることが重要ですし、それを皆さんに周知することも大切です。また当会の支援を知らずに修学を諦める交通遺児が出ないように、広報活動にも力を入れています。今後も飲酒運転を含め交通事故の撲滅を目指し、交通安全意識向上の必要性を訴え続けます。

奨学金制度利用者の声

将来を見据えた学びや経験
支援を受け充実した毎日に感謝

小学2年の冬にバイク事故で父を亡くしました。交通遺児育英会の奨学金制度については小学校のとき母に聞いて知り、大学進学を機に支援を受けています。

大学では国際系の学部で主要科目の英語以外にさまざまな科目を学んでいます。面白いのは経営や経済学で、心理学にも興味があります。学生生活は楽しみも多く、アルバイトしたお金で友達と韓国に行きました。初めての海外旅行で、知らなかった文化をいろいろ見てきました。育英会の支援のおかげで、充実した毎日を送っています。

昨年の夏休みには車の運転免許を取得しました。ドライバーになって気付いたのは、運転する人はもちろん、歩行者も自転車の人も交通マナーの知識が必要だということ。みんなが交通安全を意識すれば、交通事故の防止につながると思います。

将来は金融や保険関係の仕事に就きたく、公務員も視野に入れています。育英会の補助を受けて、就職に有利な簿記やファイナンシャルプランナーなどの資格も取る予定です。そして安定した収入を得られるようになって、母と祖母にたくさん恩返しをしたいです。

（大学2年　時久真菜さん）

企画・制作／西日本新聞社メディアビジネス局

交通事故ゼロ、飲酒運転ゼロを目指して、無料出張講演を行っています。

交通遺児や保護者の方の体験を視聴いただくことは、交通安全の大切さを実感する絶好の機会となります。ぜひ、お問い合わせください。

交通遺児育英会は、50年以上にわたり、保護者が交通事故で亡くなったり、重度の後遺障がいのため、経済的に修学が困難になった子どもたちに、高校や大学・専門学校などへの進学を支援し続けています。修学を終えると、社会に役立つ人材として羽ばたいていきます。私たちの活動は大きく❺つの事業で成り立っています。

❶奨学金の無利子貸与（一部給付）
❷奨学生の指導および育成と交流
❸学生寮「心塾®（こころじゅく）」の運営
❹修学支援金の給付
❺交通安全推進運動への協賛・協力、無料出張講演等

私は、進学の夢をあきらめない。
公益財団法人 交通遺児育英会

募金課 0120-521285（平日9:00～17:30）
〒102-0093　東京都千代田区平河町2-6-1　平河町ビル3階
交通遺児育英会 検索
bokinka@kotsuiji.com